

JUA Newsletter for Next Uro-Generation

医学生・初期研修医のための泌尿器科Newsletter

九州・沖縄地区（沖縄）

沖縄はいわずと知れた、南国リゾートが魅力の観光立県です。人口26万人、30近い有人離島があり、当院はその島国に位置している事に特色付けられるといつても過言ではありません。当院は那覇よりも少し北、小高い丘の上に位置する300床の沖縄唯一の大病院です。当科で扱う疾患は泌尿器癌・良性腫瘍、腎移植、尿路結石、小児泌尿器、女性泌尿器、排尿障害、男性不妊、泌尿器感染症、腹膜透析カテーテル手術など多岐に渡ります。一般的に泌尿器科は多くの施設で診療範囲が広い傾向があると思いますが、当院は「島」に存在しており、他の市中病院で診療困難な症例の「最後の砦」的立場にあります。

必要があります。上級医の先生方は専門分野を持ちながらも、ほぼオールマイティに診療を行っており、その先輩方の様な泌尿器科医を目指して私も日々研鑽をつんでいるところです。

ところで私は平成28年に琉大腎泌尿器外科へ入局し、当院・東京医療センター・那覇市立病院での研修・業務を経て再度大病院へ戻ってきました。平成28年に半年間の病棟チーフ（すべての入院患者・手術のマネージメント役）を無事に終え、外来・手術・臨床業務の合間に女性泌尿器科（主に20代について）を

～ 沖縄と泌尿器科と私 ～ 琉球大学医学部泌尿器科

て女性なのに泌尿器科医になったのか」という質問を何度も受けてきましたが、決定的・感動的なくらいのエピソードがあるわけではなく、いつも少し答えに困ります。泌尿器科に入局しようと思っ

たのは医学部5年生でポリクリを回ってからです。ちょうどポリクリのローテーションのとき、女性チーフがバリバリ病棟業務も手術もこなし、学生の面倒もよくみてくれてとても印象が残っていました。当時から手技・手術ができる診療科がいい！と漠然とは考えていて、外科系で女性も活躍できる科ということで「ふるい」にかけて私のなかには泌尿器科しか残りませんでした。そんなほぼ直感的な理由ですが、学生時代から初期研修終了まで一切決心がぶれることなく入局いたしました。入局以後泌尿器科医になったこと

を後悔したことは幸い一度もありません。また、女性患者さんから喜ばれる事も多くあり、女性泌尿器科医のニーズの高さも実感しています。

現在は、腹腔鏡技術認定医取得と学位取得に向けて奮闘中です。

沖縄の泌尿器科の現状は、本島・離島の大きな県立病院ですら一人医長体制、その他市中病院も平均1人体制で多忙を極めています。現在・未来の沖縄は、新たな泌尿器科医師を数多く必要としています。また、泌尿器科は一般的に「マイナー外科」と言われていますが、患者数の多さや多臓器に渡る診療から、少なくとも我々医局員は全員「メジャー外科」であると自負しています。琉球大学腎泌尿器外科は一時なぜか入局者が途絶えた暗黒期もありましたが（笑）、この数年は新たな医局員が一気に増え賑やかとなり、また平成28年12月にはダヴィン



チの導入も決まっております（これが発行される頃には稼働し始めているはず！）、医局のムードも活気あふれてきています。

新たな入局者を医局員、いや沖縄県泌尿器科医師一同、心待ちにしています。

<自己紹介>
氏名・芦刈明日香（旧姓 喜友名）
出身地・沖縄
出身大学・琉球大学
平成28年卒
趣味・猫、バドミントン、お酒